



■講習会・セミナー・見学会

●講習会 住宅省エネ化推進体制強化のための地域リーダー(仮称)養成講習会

新築住宅の省エネ基準適合率を2020年までに100%とすることをめざして、2012年度から地域の木造住宅生産を担う工務店の断熱施工技術の向上など、地域の省エネ住宅の生産体制の整備・強化にむけた国の支援政策が展開されます。

その一環として、JBN・工務店サポートセンターをはじめとする関係団体が参画する協議会が設置され、来年度より全国各地で開催される「住宅省エネの技術習得にむけた講習会」の教材、カリキュラムなどの詳細について協議を進めているところです。予定では、講習会参加者の目標を1~1.5万人、地域リーダー養成も千~2千人としています。

これら講習に先立ち、今年度内に試行的に下記講習会が開催されることになりましたのでご案内します。

【住宅省エネ技術地域リーダー養成講習会】

開催日時:3月23日(金)・24日(土)の2日間連続講習
工務店サポートセンターではJBN会員から地域リーダー(講師)となる人材を推薦し、講習会の受講を経て、来年度より地域での講習会講師として活動をお願いすることになります。

会場:福岡県商工会議所

主催:工務店サポートセンター・全建総連・IBEC

受講資格:JBN会員(JBNより推薦) 受講料:無料(1日目)

13:00~14:00 座学(本取り組みの趣旨、カリキュラムの概要解説等)
14:00~18:00 座学(テキスト1~2章、演習)

(2日目)

10:00~11:00 実技指導(カットモデル講習)
11:00~12:00 実技指導(DVD講習)
12:00~13:00 昼休憩
13:00~16:00 座学(テキスト3~5章、図面)
16:10~16:40 考査

【一般向け技術講習会】(詳細は後日、HPにて開示の予定)

開催日時:3月24日(土)

会場:埼玉県(30名程度参加予定)

お問い合わせ先:事務局 坂口

●「国産材セミナー第四弾」

【木造建築の耐火性能と今後の可能性】

日時:3月22日(木) 14:00~17:00(予定)

講師:安井昇氏(桜設計集団代表)

公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律の施行、近年の木造耐火技術の開発などにより、建物の木造化の新しい動きが加速しています。可燃物である木材をあらわしとし、耐火性能を向上させる技術、今後の技術開発の可能性などを事例を交え解説。

主催:工務店サポートセンター

会場:住宅あんしん保証会議室(東京・京橋) 定員:50名

受講料:無料

●発行/お問い合わせ

一般社団法人 工務店サポートセンター

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町12-4 建設国保会館1階
TEL.03-5643-5668 FAX.03-5643-5669
E-mail:jbn@jbn-support.jp homepage:http://www.jbn-support.jp
発行人:藤澤好一 ©工務店サポートセンター 禁無断転載
協力:社団法人 全国中小建築工業事団体連合会



FSC® 森林認証紙と植物油インキを使用し、環境にやさしい「水なし印刷」を採用しました。

受講資格:JBN会員
お問い合わせ先:事務局 坂口

●各種講習会のお申し込み

工務店サポートセンターHP→http://www.jbn-support.jp/よりお申し込み下さい。

●刊行物のご案内

■新しい刊行物

●バリアフリー改修から始める住まい快適リフォーム 指針・事例集
工務店サポートセンター・増改築委員会編 A4版・102ページ

●地域工務店のための「耐火性能の高い木造住宅の設計・施工指針」~木造らしさを生かした耐火性能の高い家づくり~
工務店サポートセンター編 A4版・90ページ

●長期ちきゆう住宅国産材モデル型式認定(手刻み型)工法利用マニュアル・構造の安定
工務店サポートセンター編 A4版・212ページ

●同上・手刻みの基本(軸組編)】

工務店サポートセンター編 A4版・24ページ

■講習会用教材

●Ⅱ・Ⅲ地域版全建総連長期優良住宅型式マニュアル解説編
全建総連編 A4版・194ページ

*「長期優良住宅型式認定」講習会用教材(Ⅱ・Ⅲ地域用)

●工務店サポートセンター監修・編「木造住宅・工事管理の実務」
彰国社刊、監修 藤澤好一/編著 工務店サポートセンター

*「工事管理の実務」講習会用教材

●国産材でマンション・リフォーム

工務店サポートセンター編 A4版・64ページ

*「既存住宅改修」講習会用教材

●バリアフリー改修から始める住まいの快適リフォーム

工務店サポートセンター編 A4版実例入り。

*「既存住宅改修」講習会用教材

●長期優良住宅申請マニュアル申請編(新版)

工務店サポートセンター編、刊行2011年3月、A4・115ページ

・長期優良住宅建材マニュアル①(構造編)

構造用面材・木造住宅用接合金物(新版)

・長期優良住宅建材マニュアル②(省エネ編)

断熱材・開口部(新版)

・長期優良住宅型式認定マニュアル(横架材・基礎スパン表)

*以上「型式認定」講習会用教材

●JBN版「住まいの管理手帳」戸建て編

講習会用教材DVD、刊行2011年5月

*「住宅履歴」講習会用教材

●「長期・ちきゆう住宅」仕様書

工務店サポートセンター発行、刊行2010年3月、A4・118ページ

*「住宅履歴」講習会用教材

JBN 会員登録募集

全国の工務店の力を結集するための組織がJBNです。「地域から必要とされ、信頼される工務店」のために工務店サポートセンターがさまざまな面から支援します。

暮 爺 記 (ぼやき)

増改築委員会の名称変更が委員会で議論されている。改修の目的は増築だけではない。バリアフリー、快適のため、最近では、滅菌のための改修も少なくないではないか、というのが議論の始まりだ。わが国の人口は2005年から下り坂に向かっている。高齢化社会への移行が加速している。住宅の新築が一層減速する時代に入っているのだ。▼わが国ばかりか、世界が山に登るのではなく、山を下りる時代に入った、と五木寛之が「下山の思想」で述べている。下山の時は、頂上を目指して登るときとは違う眺めが見えてくる。遠く海、町の遠景、足元に花を咲かせる高山植物など、それらを眺められる心の余裕に気づくべきだとも。そして、爽り多い、豊かな下山を続ける必要があると説いている。下山の時代の既存住宅改修の代表格が「バリアフリー」から始める住まいの快適リフォーム」。さて、これからの時代に相応しい委員会名称は。(F)

http://www.jbn-support.jp

工務店サポートセンター

日本最大の工務店ネットワーク
JBN
Japan Builders Network

■JBN会員数
3月が更新期のため、4月末まで集計を休止します。

- 「耐火性能の高い木造住宅の設計・施工指針」講習会開催
- 全木協、宮崎県と災害協定締結
- 事業報告・委員会報告
- 講習会・実施報告「工事管理の実務」、「バリアフリー改修」、「構造型式(手刻み)利用」
- ご案内ほか

■「いえもり・かるて」登録累計数(2012年1月末日現在)
3,678件

レポート

2012
March
No.32

発行人:藤澤好一
©工務店サポートセンター
禁無断転載

3
月号

「耐火性能の高い木造住宅の設計・施工指針」講習会

全国5会場で開催

2月10日(金)の東京会場を皮切りに、13日(月)熊本、14日(火)名古屋、15日(水)大阪、16日(木)広島、そして18日(土)札幌の5会場で、いずれも午後1時から約4時間の講習会を開催し、好評のうちに終了しました。

この講習会でテキストとして配布された「地域工務店のための耐火性能の高い木造住宅の設計・施工指針」(写真)が刷り上がったのが、講習会直前。また入稿間際には木製板張りの防火(30分)構造の大臣認定が交付され、認定番号などの詳細を追記するというタイトなスケジュールの中で刊行され、講習会開催にこぎつけたものです。

このテキストの取りまとめにあたって目標としたのは、JBN会員工務店にとって、役に立ち、判りやすく、使いやすい指針とすることでした。林野庁の平成21、22年度の地域材利用加速化支援事業によるもので、途中、試験機関が混み合って防火性能評価試験が実施できなかったり、東日本大震災の影響を受けたりで、1年遅れの成果となりましたが、講習会開催でようやく事業終了となりました。

この事業の成果の一部はすでに「木造軸組工法による省令準耐火構造住宅・設計施工マニュアル(2011年7月)」としてまとめられ、住宅金融支援機構承認の省令準耐火構造仕様として利用されています。

本書は、この間の木製外壁防火性能評価試験に基づく検証、適用事例の収集などをもとに、建築基準法上の耐火規定との関連から「木造らしさを活かせる耐火性能の高い家づくり」の設計・施工指針として取りまとめたものです。

取りまとめにあたっては、耐火委員会長森森委員長と藤澤センター長が参画し、斯界の第一人者である安井昇氏に監修・助言をお願いし、



真剣に解説を聴講者で満席の東京会場



解説に熱が入る安井昇氏

全木協「災害時における応急仮設住宅建設の協定」宮崎県と締結

2月22日(水)午後2時より、全木協(全国木造建設事業協会)と宮崎県との間で「災害時における応急仮設住宅建設の供給に関する協定」の調印式が行われました。徳島県、高知県に次いで3県目の締結となります。

調印式は県庁内の知事会議で行われ、宮崎県の河野俊嗣知事と協定の締結が行われました。全木協からは青木宏之理事長、徳本茂専務、地元の県労中川實二郎執行委員長が出席しました。他に次の2つの協会とも被災者向けの住宅供給について協定の締結が行われました。

「木造の応急仮設住宅の建設に関する協定」が、また宮崎県建築業協会からは新町吉男会長をはじめ3名の副会長が出席し、県産材を使用した木造仮設住宅の建設、被害が生じた公共建築物の応急措置など「災害時における建築物の応急対策に関する協定」が、また(社)全国賃貸住宅経営協会からは、川口雄一郎会長はじめ、久保田和入宮崎県支部長らが出席し、「災害時における民間賃貸住宅の提供に関する協定」が締結されました。

締結を終えて、河野知事は「東日本大震災を教訓にして民間の団体と

有用な資料の提供をいただきました。また、構成、作成にあたっては現代計画研究所の今井信博・樋口祥一両氏に多大のご尽力をいただきました。

東京会場では、安井昇氏に2時間半をかけて、このテキストをもとに木造住宅の耐火性能を高めるための設計と施工に関する考え方とポイントについて詳しく解説をしていただきました。

大臣認定の「広く、確実な運用」に向けて



設計・施工指針表紙

この成果物は、国の助成「地域材利用加速化緊急対策支援事業」によるものです。国産材利用促進に寄与すること、地域工務店が広く活用出来る指針となること、そして何よりも建設された住宅の耐火性能の信頼性を高めることがねらいです。そのポイントは木材の火に対する性質を十分に把握することにつきます。その上で、火災に強い木造住宅を設計にあたることです。「広く、確実な利用」という主旨から、費用負担はできるだけ抑え、確実に耐火性能を高めるといふ面では、しっかり設計・施工上の管理をしていただかなくてはなりません。

運用に向けて、大臣認定を織り込んだ仕様書、設計施工チェックリストの作成を急ぎ、これらを追加した講習会を5月から全国一斉に開始する予定です。講習会の開催は、会員団体ごとに小さなグループでもできるように、そのためのリーダー講習会や教材の準備に着手しております。教材の一つとして、東京会場での安井昇氏の講演内容をもとにしたDVDの製作にもとりかかっています。

この講習会が、木の良さを活かした耐火性能に優れた地域の工務店ならではの住まいづくりに広く活用されることを願っています。

工務店サポートセンターでは、この仕様の利用にあたって次の2つの条件を設けることにしています。
・JBN耐火仕様利用には、本講習会を受講し、登録管理者(耐火講習)として設計・施工の内容を管理すること
・その管理記録をいえもり・かるて(住宅履歴情報)として登録すること。(F)

応急仮設住宅の協定を結んで震災に対して備えることができるのはたいへんありがたい。九州では初めての締結であり、林産県らしい県産材を利用した仮設住宅が建設できることの意義は大きい。これからも民間のパワー、支援に期待している」と感謝と期待の言葉がありました。

青木理事長は「全木協が設立された昨年9月から、福島県では現在までに600戸以上の建設実績があり、最近になって50戸の追加発注があった。地域の工務店・大工がつくる仮設住宅が、性能に優れているということの証拠です。この応急仮設の建設には宮崎県からも応援にしている。地域にお金がまわることでも、この協定の意義は大きい」とあいさつしました。

この締結式には、宮崎県内の多くの地元報道関係者機関が取材に訪れ、締結式後の記者会見の様子がテレビ、ラジオ、新聞などで紹介されました。



調印式のあと握手を交わす青木理事長と河野宮崎県知事(中央)、両協は新町会長(左)と川口会長(右)

東日本大震災で被災された全建連・JBN会員、会員団体の関係者の方々には、心よりお見舞いを申し上げます。
一般社団法人全国木造建設事業協会(全木協)の活動を支えるとともに関連機関との連絡、調整をはかりながら復興支援に努めてまいります。

活動報告

前月号以降の活動

○第1203回 役員会 2月14日(火) 15:00~16:30

理事3名、相談役1名、執行役員2名、事務局1名

【あいさつ】

・青木理事長

全建連会長退任にともない、JBN・工務店サポートセンターはどうかという問い合わせが多く、説明に追われている。工務店による工務店の活動と支援にこれまで以上に注力するつもりだし、そのための努力は惜しまないとお応えしている。この間、多くの集まりに呼ばれ、講演などを通じてお話しする機会も増えているので理解も広まっており、今後もその機会をできるだけもつようにしていきたい。応急木造仮設住宅の災害協定の動向、地域型住宅ブランド化などに強い関心が寄せられており、これらの活動と組織の拡大の増強のためにも事務局を移転し、事務機能の効率化をはかることにした。一層の協力をいただきたい。

・藤澤センター長

先月の全建連事務局局長会議で、サポートセンターのこれまでの活動を詳しく説明し、サポート体制の整備、充実の状況が、地域型住宅ブランド化にとって活用できるものが少なくないことを訴えた。年度末を控え、多くの補助事業の成果にもとづく様々な講習会が全国各地で開催されているが、工務店の活動にとって役に立つ内容であり、好評だ。開催の場所、回数に限られており、広く活用してもらうための方策を4月以降になるが整えたい。

【主な報告】

1) センターレポート (No.31) 関連、委員会報告

2) 会員実数、住宅履歴登録数

3) 財務諸表報告

4) 瑕疵担保保証保険の提携保険法人について

瑕疵担保法人を工務店が選べるようにする。

5) 地域ブランド化事業JBN支援申請申込み状況

現在まで16団体が申込。

6) 福島県全木協・応急仮設木造住宅追加発注について

50戸が追加発注された。災害協定を締結した高知・徳島・宮崎の工務店が参加。

7) 林野庁補助金申請について…大型木造委、増改築委が申請を検討

8) その他…理事長の動き関連

【主な議題】

1) 地盤調査・地盤保証の提携機関について

(株)住品協保証事業との提携を承認した。瑕疵保険との関連等の詳細は今後に協議。

2) 事務所移転について

候補の京橋事務所を役員会で確認し、契約することを承認した。

3) JBN会員の加入の扱いと会費の改正について

直接加入会員を設け、それぞれに前回示された会費改正案を承認した。

4) その他

・会員全国大会の企画

・総合工事保険

・ジャパンホームショー(JHS)への参画方式

・ゼロエネ住宅への応募の件

次回 3月13日(火) 役員会 13:00~14:30

社員会・運営会議 14:30~17:00

青木理事長の動き

2012年1月18日(水)~2月14日(火)

1月

・18日(水) 環境委員会出席 地元神奈協役員会

・19日(木) 木造住宅フォーラム23回(千葉県担当国交省)で木造仮設住宅建設について報告

・20日(金) 中国木材新年会出席(センター長も)

新建ハウジング取材

・21日(土) マルダイ新年会 国交省施策などを講演

・24日(火) 秋田県木材加工推進機構主催セミナーで講演(センター長も)

・25日(水) マーケット委員会正副会議

全建連事務局局長会議で講演(大工・工務店が主役になるには)

福岡木造住宅協会総会にて講演(センター長も)

2月

・2日(木) 国交省不動産課中古流通フォーラム委員会

国交省木造住宅振興室と打合せ

・3日(金) 神奈川県まち協構成団体集会で講演(リフォームトータルプラン)

・6日(月) 神奈川県庁で全木協協定打合せ(全建総連、長森役員同行)

・7日(火) 林野庁打合せ(大型木造委山田委員長同行)

地元商工会議所建設部会で講演

・9日(木) 広島スガノ研修会で講演、広島工務店協会で講演(国交省

施策と大工・工務店が主役になるには)

・10日(金) 国総研 劣化診断技術開発委

・12日(日) 全建総連・神奈川県連で講演(国の施策・全木協の説明)

・13日(月) 住宅あんしん保証打合せ(センター長も)

・14日(火) 役員会

委員会・WG報告

次世代の会

●第1201回 1月25日(水) 13:00~17:00

東京シティアターミナル会議室

・木材の放射能汚染について林野庁・赤羽課長補佐を招き、現在の木材の放射能の影響等について解説を受けた。

・最近の住宅関連判例について匠法律事務所秋野先生を講師に招き、住宅訴訟に関する判例などの解説を受けた。

●第1202回 2月15日(水)・16日(木) 1泊2日視察研修

・15日(水) パナソニックエコシステムズ工場視察

・16日(木) コスモホーム視察

国産材委員会

●第1201回正副委員長会議 2月9日(木) 12:00~13:30

東京シティアターミナル

・第4回国産材委員会主催セミナーについて

・積算資料ポケット版への地域材掲載協力フォローアップ掲載地域の拡充と担当者配置

・次年度の活動計画について

●第1202回正副委員長会議 3月22日(木) 12:00~13:30

・安井昇氏講演(お知らせ欄・参照)

・次年度の活動計画等について

環境委員会

●第1202回 3月14日(水) 16:45~18:00(予定)

(13:30~16:30 LCCM住宅シンポジウム(すまいるホール)に参加)

1. 2012年度環境委員会活動について意見交換

2. 住宅のゼロエネルギー化推進事業について情報交換

3. 環境省うちエコ診断事業中間報告と24年度事業への取り組みについて

増改築委員会

●第1201回 1月13日(金) 15:00~17:00

東京シティアターミナル

1. 「バリアフリー改修からはじめる快適リフォーム」事例集作成について報告(現代計画)

2. 「改修工事のインスペクション」について概要説明(センター長)

3. 「中古住宅・リフォームトータルプラン」へのパブリックコメントの募集について

4. 次年度活動 WG設定について

●第1202回 2月23日(木) 15:00~17:00 予定

東京シティアターミナル

1. 「バリアフリー改修からはじめる快適リフォーム」講習会の成果報告(現代計画)

2. 「住宅改修の記録写真・撮影・整理の実務」作成報告

3. リフォーム評価ナビの案内について(住まいづくりナビセンター・社本氏)

改良型木造軸組工法委員会

●第1201回 3月開催予定(場所・時間未定)

・長期優良住宅型式(手刻み)認定の今後

大型木造研究委員会

●大型木造研究委員会

1101回 2月15日(水) 15:00~18:00

東京シティアターミナル

1. 林野庁赤羽課長補佐による制度の説明
公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律の背景、公共建築物での木材の利用状況、事例紹介など

2. 東京大学腰原先生の講演
時代による木材利用の変遷、大型木造建設の現況、技術の転用か新しい技術開発、構造計算にのる部材開発の必要性、流通材利用の重要性、ターゲットとすべき建物など。

3. 今後の委員会運営方針について説明
本年度の目標と委員会活動、スケジュール、委員会構成について

マーケット委員会

●マーケット委員会

・設立準備 2月17日(金) 10:00~12:00

・移住住みかえ機構とFPのヒアリング

・次回 3月14日(水) 11:00~12:00 サポートセンター内

講習会開催実績報告

年度末を控え、工務店サポートセンターとして取り組んできた事業成果がまとまり、それらのJBN会員への普及のための講習会が全国各地で開催されました。「防耐火性能の高い木造住宅の設計・施工指針」(1ページ)をはじめとする以下の成果講習会です。年度内事業のため期間、開催地が限られてしまいましたが、来年度はじめてからできるだけ多くの会員の方々に活用していただけるような講習会の持ち方、サポートのあり方を整備してまいります。

本欄では、成果物の概要と講習会の様子などを紹介します。

●「バリアフリー改修から始める住まいの快適リフォーム」講習会

1月24日(火) 広島市

1月26日(木) 名古屋市

1月30日(月) 新潟市

1月31日(火) 千葉市

2月 1日(水) 高知市

主催:工務店サポートセンター

テキストは、「バリアフリー改修から始める住まいの快適リフォーム指針・事例集」(A4/102頁・2012年1月刊行)と「国産材でマンションリフォーム」(A4/102頁・2011年3月刊行)を使用し、午後の約4時間をかけて行われました。

バリアフリー事例集は、平成21年度「国土交通省高齢者居住安定化モデル事業」の補助を受け、「地域工務店による既存住宅のバリアフリー改修とその促進と実績にもとづく指針の整備」業務として作成されました。事業を通じて実際に全国で取組まれた120件の施工例から整理、分析を行い、優れた設計・施工事例に取材を行い、指針・事例集としてとりまとめました。

また、国産材利用のマンションリフォームは、林野庁補助によるもので、都市の工務店が手がけた事例を集めたものです。

主な講師は、増改築委員会の玉置委員長をはじめとする委員と藤澤センター長、そしてテキストの編集と事例調査などで協力をいただいた今井博氏(楳現代計画研究所)が担当しました。

開催地により、参加者の関心はバリアフリーとマンションに分かれていましたが、JBN会員工務店が手がけた改修事例だけに、参加者からはその仕事ぶりに親しみや共感、あるいは刺激をうけ、啓発されたという声、営業ツールとして、需要者ニーズの掘り起こしに役に立つという評価が聞かれました。

この既存住宅の改修市場では、高齢化がすすむわが国の実情からもバリアフリー改修が大きな位置を占めることはいうまでもありません。JBN・工務店サポートセンターでは、これら見込まれる需要増に対応できる業態として多くの実績とノウハウをもつ地域の工務店の機能が合致、適合すると考えています。とりわけ、地域の木材を使いこなし、その技をもつ大工職をはじめとする専門職とともにすすめる仕事は最も得意とする分野でもあります。今回のバリアフリー改修施工例には、地域の工務店だからこそ出来たのだというものが多く紹介されています。ぜひご活用下さい。(F)

●「型式認定(手刻み型)工法」利用講習会

1月18日(水) さいたま市

1月19日(木) 豊橋市

1月25日(水) 山口市

1月26日(木) 熊本市

2月 3日(金) 徳島市

主催:工務店サポートセンター

共催:全建総連

テキストは、「JBN長期ちきゆう住宅国産材モデル型式認定(手刻み型)工法」(A4/213頁・2011年12月刊行)と「手刻みの基本(軸組編)」(A4/28頁・2012年1月刊行)。このほかに、下記の既刊テキスト

・長期優良住宅申請マニュアル申請編(新版)

・長期優良住宅建材マニュアル①(構造編)

・長期優良住宅建材マニュアル②(構造編)

・長期優良住宅用接合金物(新版)



・長期優良住宅建材マニュアル②(省エネ編)断熱材・開口部(新版)

・長期優良住宅型式認定マニュアル(横架材・基礎スパン表)
改良型木造軸組工法委員会が2010年7月に設置され、1年余をかけて地域の工務店らしい優位性を備え、国産材と大工の技を活かせる改良型木造軸組工法のありかたについて検討してきました。その前提として、長期優良住宅としての性能を満たし、認定審査も円滑な型式住宅の認定取得が条件でした。そのため、前年度に取得した住宅型式(プレカット型)をもとに、手刻みの範囲、仕様を設定するとともに、それを担う大工技能者の能力レベルと評価、将来にわたっての確保、育成などについても検討を重ね、その成果としてまとめられたものです。

本型式住宅の特徴は、手刻みとしたことであり、当然のことながら大工の技能と施工、その管理が重要視されます。とりわけ「構造の安定に関する性能」に関わる「接合部、耐力壁、水平構面」の確保が最大のポイントになります。

そのため計画に際しては、垂直・水平構面を考慮した架構、耐力壁縁距離の確保、吹抜けの設けかたなどにルールを設けています。

また、型式利用のマニュアルに加えて、「手刻みの基本(構造編)」を作成し、担い手である大工にも講習会の受講を義務づけているのが本型式工法の大きな特徴でもあります。

型式利用マニュアルについては、利用のしやすさ、そのための明快さ、判り易さに配慮してあります。図解により型式の「主様なルールと仕様(構造の安定に関する性能)」を主要構造部・耐力壁・耐力壁縁・水平構面・接合部・基礎・横架材別に配置し、インデックスとして利用しやすくしてあります。

講習は、既刊テキストを使用した型式認定(プレカット型)工法と共通する部分は午前、午後は(手刻み型)に関する内容で行われました。午後の講師は、全ての会場を改良型木造軸組工法委員会の西村慶徳委員長が務めました。実務に明るいだけに説得力があり、JBNらしい講習会となりました。開催地によって参加者の構成が、JBNと全建総連とに分かれ、管理者と大工を兼ねるケースに違いが見られました。

今回の内容で完結するものではなく、利用の広がりによって、改良、追加が加えられ、さらに使いやすく、地域産材の利用拡大と大工の存在、地域からの工務店に対する信頼につなげていく必要があります。(F)

○「型式認定(プレカット型)工法」利用講習会

Ⅳ 地域対応 10月24日(月) 大阪市

10月25日(火) 名古屋市

11月 7日(月) 東京都

11月 8日(火) 宮崎市

11月16日(水) 高知市の5か所

Ⅱ・Ⅲ地域対応 2月16日(木) 秋田市

いずれも主催:工務店サポートセンター 共催:全建総連

●「木造住宅・工事管理の実務」講習会

10月21日(金) 広島市

12月16日(金) 宮崎市

12月19日(月) 札幌市

2月 1日(水) 岐阜市

2月17日(金) 横浜市

主催:工務店サポートセンター

テキストは、「木造住宅・工事管理の実務」

(A4/179頁・2011年7月・彰国社刊)

工務店サポートセンターでは、企画から満三年、JBN若手実務者を中心に刊行委員会を構成し、執筆、編集、調整、監修を重ねた末に刊行されました。工務店の若手現場監督(施工管理者)のための入門書でもあり、経験の浅い現場監督でも行き届いた現場管理が行える内容になっています。

講習は、本書の編者を統括した長森延久執行役員が、工事管理業務とはどのようなものか、管理者の役割と重要性について解説し、さらに若手執筆者が分担して工事管理の実務・事例報告を行い、木造住宅の現場管理(施工管理)にあたる人材の育成と能力向上をはかるにはどうすればよいか、について参加者と意見交換を行いました。

あわせてこれら工事管理の実務と関連づけて、JBN独自の資格制度であるJBNインスペクターとJBNインスペクションシステムについて、藤澤センター長が考え方を説明し、これからのJBN工務店にとって自主管理体制のあり方、地域から信頼される業界資格とシステムへと発展させるねらいについて解説しました。この講習を通じて、工事管理とインスペクションシステムの重要性について理解され、いくつかの開催地から、長森執行役員に対してもっと時間をかけた濃い内容の講習会をもちたいので講師として招きたいという要望が来ています。こうした要望にも応えられる実務的な講習会プログラムも用意できるようにしていきたいと考えています。(F)

